



# 俳句ゆめクラブ会報

2022年7月26日

第 146 号

互 選

今回の兼題は「西瓜」であった、夏本番になって来ると一度はどうしても西瓜を食べないと気が済まず、我が家でも一玉買って来た、しかし夫婦二人では一回に食べるのは四分の一で食べきるのに四日掛かった。

西瓜は食べて美味しいが目も喜ばすもので言わば夏の風物詩、いつまでも元気で食べられるようでありたいと思っている。

## 梅田先生の句

朝風のやはらか白きさるすべり  
子等の来て真つ先に切る大西瓜  
天辺の青栗宙へ輝けり

## 梅田先生選

《特選》  
流行の男の日傘颯爽と  
一鳴きで去る初蟬のあつけなく  
青の緋に茶室ひとときにぎはへり  
白足袋の足並み揃ふ大神輿  
博多の夜山笠走る人走る  
藍色の似合ふ母なり更衣  
鴉鳴く声の重たき大暑かな  
今朝もまた心新たに白木槿

一寸の蟻螂我を威嚇せり  
暫くはうんちくばなし黒西瓜

## 《入選》

手頃なるクォーターサイズの西瓜買ふ

青柿の熟れるを待たずぼとりぼと  
井戸水の溢るるバケツの西瓜かな

寝れぬ夜の蚊遣の香風にのり

阿の口で餌欲る鯉の群れ大暑

西瓜食ふ前歯抜けし子苦勞せる

夏の旅乗りつぎ食す黒たまご

真つ二つ西瓜の真つ赤声を挙ぐ

とりどりの山鉾古都のよみがへる

去年より遅く聞こゆる蟬の声

庭仕事切り上げ呷る缶ビール

スーパ一の八切り西瓜手に重し

採り立ての西瓜ざつくり種黒し

箒目や刻のうつろひ夏初め

青楓まだ色づかぬ小径ゆく

切り売りの西瓜分け合ふ家族かな

青林檎昔の頃を思ひ出し

水耕の西瓜葉陰に太りくる

カップ入りふと手の伸びる切西瓜

異常気象やつと耳にす蟬の声

宮島昭夫

瀬戸川公子

浅見法子

岩松忠子

宮島昭夫

岡田時雄

長澤輝子

小林健一郎

八千代幸男

瀬戸川公子

浅見法子

岩松忠子

瀬戸川公子

大井昭子

鈴木幸恵

八千代幸男

小林健一郎

長澤輝子

鈴木幸恵

長澤輝子

青天の男の日傘流行をり

子等の来て真つ先に切る大西瓜 (4票)

藍色の似合う母なり更衣 (3票)

鴉鳴く声の重たげ大暑かな (4票)

一寸の蟻螂我を威嚇せり (5票)

暫らくはうんちくばなし黒西瓜 (3票)

(3票) 岩松忠子

(4票) 梅田ひろし

(3票) 大井昭子

(4票) 小林健一郎

(5票) 岡田時雄

(3票) 大井昭子

## 〔決定事項・連絡事項〕

・8月は暑さと新型コロナ感染警戒もあり休会とする。

・次回句会 9月27日(火) 13時より

・場所は未定、追って連絡。

兼題 「残暑」

他に自由題で二句、合計三句提出のこと。

・大井昭子さんが自己都合で退会、長らくのお付き合いを感謝します。

(小林健一郎記)

(了)

